

連合平和行動2025

ピースメッセージ #1

自治労 I・Tさん

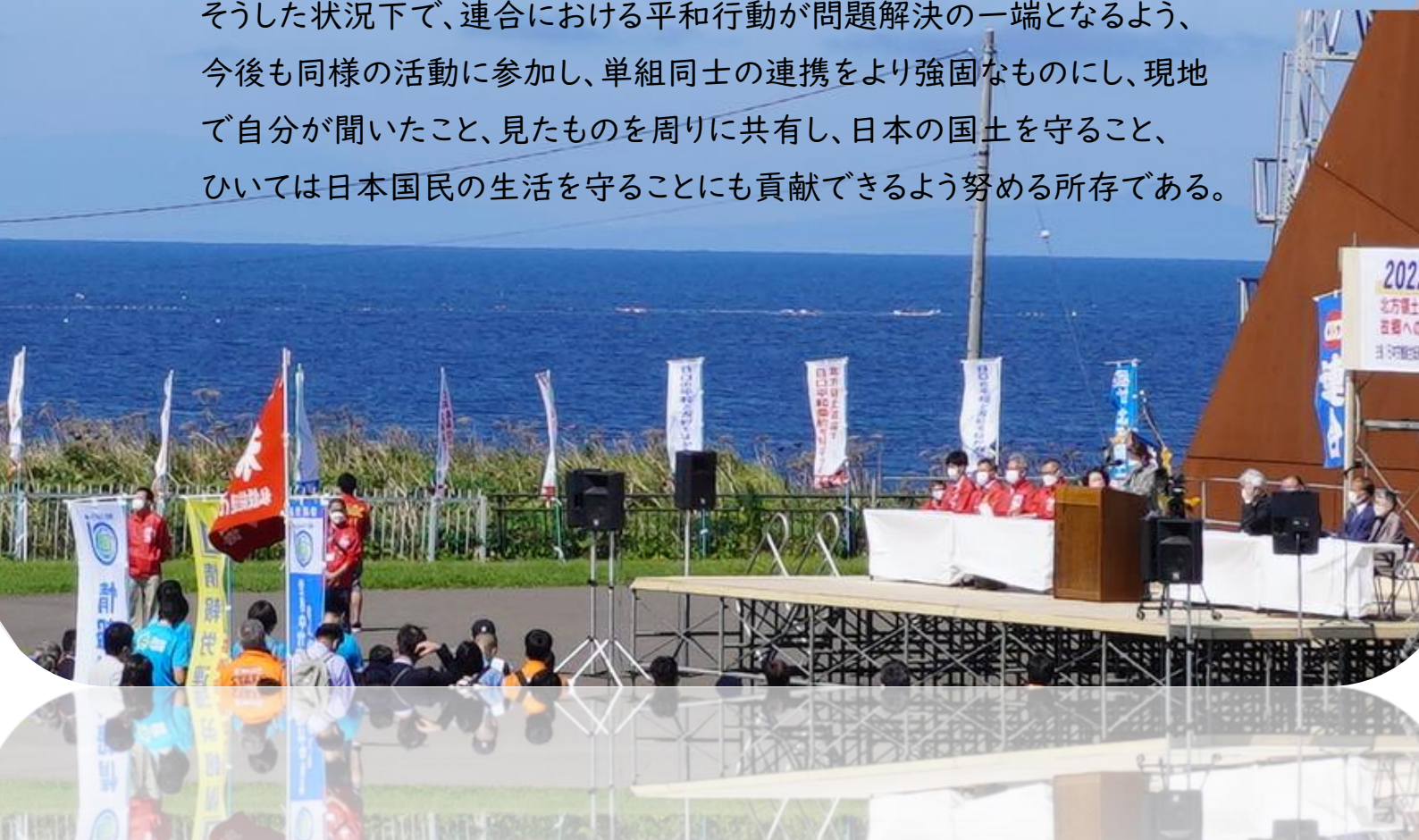
2025年9月5日から7日までの3日間、北海道の根室地域を中心に平和行動に参加した。

特に印象深く記憶に残った活動は、2日目の6日に北方四島交流センターで行われた、元島民の方々の講話だった。

当時のソ連兵の侵略により、幼いころに生まれ故郷を離れざるをえなかった方々の体験談は非常に胸を打つもので「同じことが自分の身に起きていたら」と考えずにいられなかった。

近年は新型コロナウイルス感染症によるパンデミックや、ロシアによるウクライナ領侵略問題等により、北方領土問題解決に向けた話し合いが進まず、尚且つ元島民の方々の平均年齢は上昇する一方である。

そうした状況下で、連合における平和行動が問題解決の一端となるよう、今後も同様の活動に参加し、単組同士の連携をより強固なものにし、現地で自分が聞いたこと、見たものを周りに共有し、日本の国土を守ること、ひいては日本国民の生活を守ることにも貢献できるよう努める所存である。



ピースメッセージ #1

自治労 T・Kさん

私は、日本が抱える領土問題に関して、普段から見聞きする報道や書籍により、漠然とした感覚しか持ち合わせていませんでした。

今回の平和行動において企画していただいた「北方四島学習会」では、まず、山田吉彦先生の講演において、島々や海洋資源の開発に関するお話を伺うなかで、海洋国家である日本が置かれている状況を、今一度確認させていただくことができました。また、明治維新前より祖先が開拓・開墾していった土地を追われ、戦後 80 年経つ今も先祖のお墓にも供養に行けなくなっている方々のお話を聞き、一刻も早い交流の再開と領土返還の必要性を知ることができました。

この学習会でいただいた情報を持ち、納沙布岬の先端に立つと、ロシアのウクライナ侵攻と同じような事態が、今、目の前に現実として存在しているかのように感じられ、恐怖を感じました。とともに、そうならないよう「平和」的な解決が必要であると改めて考えさせられました。

平和ノサップ集会でも語られた「平和無くして労働運動無し」この言葉を心に刻み、まずは知ることから始められるよう、組合における平和の取り組みを続けたいと思います。

